



貞山・東名・北上運河の復興に向けて

宮城県には、阿武隈川から旧北上川まで、全長約49キロメートルにわたる長さ日本一の運河群（貞山・東名・北上運河）があります。しかし、その運河群も東日本大震災の大津波により、堤防などが被災し、美しい景観が失われてしまいました。

県では、運河群の再生を進めるとともに、これらの運河が震災からの復興と鎮魂のシンボルとなるような取り組みを進めています。

運河群の復興に向けた取り組み

運河群の復旧・復興を進めるに当たっては、貴重な土木遺産であることを踏まえ、その魅力を損なうことなく、環境や景観に配慮した整備をすることが求められます。沿岸市町が策定した震災復興計画においても、運河群を通じた人々の交流再生や新しい観光産業の導入などが盛り込まれ、復旧後の利活用や集客機能の向上による地域振興が期待されています。これらのことから県では、平成25年5月に「貞山運河再生・復興ビジョン」を策定しました。ビジョンでは、運河群が縱断する沿岸地域が、運河を利活用して地域の再生・復興を成し遂げられるよう、目標とする姿などを示しています。現在は、国や県、関係市町など、さまざまな主体が連携して、ビジョンに掲げた取り組みを推進しています。



震災前の貞山運河(木曳堀)



震災後の貞山運河(新堀)

近年は、治水や利水といった河川としての重要な役割を果たすほか、周辺の並木と調和した景観が、多くの方に愛されています。しかし、東日本大震災による津波で堤防や護岸などが甚大な被害を受けたことにより、美しい景観が失われた状況になっています。



図 運河群の位置

貞山運河、東名運河、北上運河（以下「運河群」）は、江戸時代から明治時代にかけて開削・延伸された歴史ある土木遺産です。江戸時代に木材の輸送を主な目的として貞山運河が開削され、その後、明治政府によって計画された野蒜築港事業などに関連して、その延伸が行われました（図）。

壊滅的な被害を受けた運河群

…魅力ある貞山運河の復興を応援します…

文化遺産の再生工程に意義

貞山運河再生復興会議座長
宮城大学事業構想学部教授(地域資源論)
宮原 育子さん



県が策定した貞山運河（東名、北上両運河含む）の再生・復興ビジョンの具体化に向け、専門的な見地から整備状況を見守り、提言するが貞山運河再生復興会議の役割。その座長を務め、委員間の議論を活性化して運河の復興を支える。

「運河は江戸、明治と異なる時代の土木技術によって築かれた世界にも貴重な歴史的建造物。仙台平野の水利を担うとともに、水辺環境と豊かな自然があり、宮城の沿岸部では当然ある風景でした。地域の人たちにとって心のよりどころでもありましたから、運河を復旧して復興のシンボルにしようという取り組みは素晴らしいことです」宮原さんは運河再生整備の理念を高く評価する。

運河は単なる土木建造物ではなく、歴史を物語る土木遺産、文化財だと位置付ける。「長大な文化遺産を今の技術で再生する過程も意義があり、きっと世界から注目されます。整備工程自体を記録して、いざれ施設で展示すれば観光客の关心を呼ぶと思います」

観光面の活用については「運河群を一本につなぐことも含めて、観光に生かす仕組みを皆で考えていきたい」とも話した。

運河の復興に向け、桜の植樹など、沿岸景観を再生する事業が動き出す。宮原さんは、かつてあった松並木の景観にも次のように思いを寄せる。「松林や石積みなど、地域の人たちが慣れ親しんだ景観が運河にはあります。住民の思い出を呼び起こせるような景観デザインにも配慮してほしい」

運河復興へのご支援を募集中

県では、「貞山運河再生・復興ビジョン」に掲げる取り組みの一つとして、運河沿いに復興と鎮魂のシンボルとして官民連携で桜の苗木を植樹し、新たな景観を創出しようとを考えています。このため、次のことで募集しています。

- 皆さんからの温かいご支援をお待ちしております。
- (1) 桜植樹ボランティア
- (2) 植樹した桜の育成や管理に協力いただく桜回廊サポート
- (3) 寄附金
- (4) 苗木や資機材の寄附



被災直後の貞山運河 桜植樹イメージ図

貞山運河 桜植樹

歴史的価値高く観光資源に

貞山運河研究所理事長
東北大学名誉教授(情報科学)
宮崎 正俊さん



貞山運河（東名、北上両運河含む）を観光資源として活用し地域活性化を図ろうと今年7月、民間団体「貞山運河研究所」を設立し、理事長に就いた。前身は、2003年に発足した一般社団法人東北ニュービジネス協議会の下部組織「海洋ニュービジネス研究部会」と、07年に運河流域の9市町と民間で立ち上げた「貞山運河の魅力再発見協議会」。より活動を活性化させようと、新たなスタートを切った。

いざれの組織でも代表を務めた宮崎さんは「東日本大震災から、地方での産業衰退や人口減少は問題化していました。復興を目指すなら、地域力を強くする、持続的な発展につながる取り組みをする必要があります」と活動の意義を強調。「貞山運河は日本最長の運河であり、歴史的価値もあります。ブランド化を進め、国内だけでなく世界中から観光客を呼び込みたいと考えています」と意気込む。

運河を活用した観光客誘致の成功例として、北海道小樽市やペルギーの古都ブルージュを挙げる。「特にブルージュでは、古い街並みをボートで巡るツアーが人気で、多くの観光客が訪れています。船でのツアーは、観光の目玉になります」と話す。

現在は、運河に親しんでもらうためのイベント開催とホームページ開設に向け準備中。宮崎さんは「観光資源化には多くの課題がありますが、行政や地域と一緒に取り組んでいきます」と述べた。

■企画/県広報課 ○お問い合わせ/県河川課 022(211)3173



県からのお知らせ

身体障害者を対象とした
宮城県職員採用選考会

地球にやさしい水ライフスタイルを
始める県民の方を応援します

●職種・採用予定人員／①一般事務(大学卒業程度)・5人程度②警察事務(短期大学卒業程度)・若干名③一般事務(高等学校卒業程度)・5人程度④学校事務(高等学校卒業程度)・若干名

●応募資格／身体障害者福祉法第15条に定める身体障害者手帳の交付を受け、その障害の程度が1～6級の方(そのほかの受験要件あり。大学卒業者は③④の受験不可)①～④いずれも点字などによる受験可能)

●対象年齢／①昭和60年4月2日から平成5年4月1日までに生まれた方②昭和60年4月2日から平成4年1月1日までに生まれた方③④昭和60年4月2日から平成9年4月1日までに生まれた方

●給与待遇等／県の規定による

●第1次参考日／12月3日(水)

●出願期限／11月12日(火)(消印有効)

●原書／県総合案内などで配布

□022(211)2227

オストメイト社会適応訓練相談会

●内容／術後のストマケア、器具の正しい使用方法、社会生活や福祉制度などの相談

●対象／県内のオストメイト(人工肛門・ぼうう造設者)とその家族など

●日時・場所／①10月25日(土)・石巻市役所健康センター②10月11日(土)・名取町コミュニティプラザ①②とも午後1時～4時

●費用・申し込み／無料・不要

□022(32)4234

□022(32)1225

□022(211)2541

平成28年4月開設予定
多賀城高等学校災害科学科説明会

●内容／講演「新たな学びに向けて」(講師：東北学院大学教授 和田正春氏)、学科の設立主旨・教育内容・進路などの説明、授業見学など

●対象／県内の中学校に在学する2年生・1年生およびその保護者、中学校教員

●日時・場所／10月25日(土)・石巻市役所健康センター①10月25日(土)・午前9時30分～午後7時30分

●費用・申し込み／無料・不要

□022(32)1225

□022(211)3617

子育て支援を進める
県民運動シンポジウム

省エネルギー型浄化槽および節湯・節水のための設備を新たに住宅に設置する県民の方に、費用の一部を補助します。

●対象／省エネルギー型浄化槽(設置主体が個人のものに限る)、節湯水栓(2口以上)、節水型トイレの全てを新たに住宅に設置する県民の方

●補助金額／一世帯あたり6万円(定額)

●申し込み／平成27年1月9日(金)までに、申請書に必要事項を記入し、下記協会へ(先着順に受け付け)

※予算額を超えた場合、期間内でも受け付けを終了する場合があります。

●申請書／ホームページからダウンロード

□022(211)8070

□県環境型社会推進課

□022(211)2648

http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/junkan/lifestyle.html

おいしい宮城は元気です!
食べてもらおう!
プレゼントキャンペーン第一弾 秋

みやぎの農林水産業の復興応援のため、食材王国みやぎ農産物消推进店が、旬の食材を活用した地産地消メニューを用意して皆さんをお待ちしています。

みやぎの恵みをおいしく食べて復興を応援しよう!

●キャンペーン期間／10月31日(金)まで

●特典／抽選で5人の方に、プレミアムひとめぼれ10kgを、15人の方に県産品ギフトカタログ(3000円コース)をプレゼント

□022(211)2813

□県農業振興課 □022(211)3617

http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sabomizusi/

※日程や申込方法など、各記事のより詳しい内容は□にお問い合わせください。アドレスを掲載している記事は、ホームページにも詳しい情報があります。

※東日本大震災に関する各種制度および相談窓口などの情報は、データ放送(NHK総合、ミヤギテレビ)で配信しています。

「犯罪被害者週間・県民のつどい」
公開講演会

●内容／第1部：ふれあいミニコンサート(みやぎっこをはぐくむために子どもと大人の相互的な関わり～)【講師：東北大加齢研究所所長 岸川隆太氏】、パネルディスカッション(地域全体で広げよう!子育て支援の輪)

●対象・定員／一般県民・200人(先着順)

●日時・場所／11月22日(土)午後1時30分～3時・アエル21階ホールA

●費用／無料

●申し込み／ファクシミリまたはEメールで氏名・郵便番号・住所・電話番号・聴講者数、託児の有無(託児を希望する場合は、子どもの人数と年齢)を記入し、下記へ

□県子育て支援課

□022(211)2528

FAX022(211)2591

Eメール kosodate@pref.miyagi.jp

http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kosodate/kenmin-shinpojium.html

土砂災害に関する情報提供について

大雨による土砂災害が多発しています。このため、県では、県内の土砂災害危険箇所をホームページで公開したり、土砂災害の危険度が高まった時に発表する土砂災害警戒情報などをメールで配信したりするなど、土砂災害による被害を防止するための情報提供を行っています。

土砂災害から身を守るために、大雨や土砂災害警戒情報が発表された時に、早めに安全な場所に避難することが重要です。日頃から土砂災害に関する情報を入手し、速やかに避難できるよう備えましょう。

●配信登録方法／下記メールアドレスに空メールを送信の後、ホームページから入力フォームで登録

touroku@doshasaigai.pref.miyagi.jp

□県防災防護課 □022(211)2813

□022(211)3617

http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sabomizusi/

「宮城マスター検定」1級試験
受検申し込み受け付け中!

産業や観光、食料、歴史、文化など、宮城のことを知り尽くした方々を「宮城マスター」として認定する検定試験を実施します。

●受験資格／平成22年度までに2級試験に合格された方および宮城マスター検定ウェブシステムのプレテストで1級受検格IDを得た方

●日時・場所／11月16日(日)午後1時30分～2時30分・県庁

●費用／無料

●申し込み／10月24日(金)午後5時までに、申込書に必要事項を記入し、ファクシミリ、Eメールまたは郵送(必着)により下記へ、もしくはホームページの申し込みフォームに必要事項を入力

●申込書／ホームページからダウンロード

□県富岡宮城推進室

□022(211)2792

FAX022(211)2719

Eメール mm-kentei@pref.miyagi.jp

〒960-8570(所在地記載不要)

県富岡宮城推進室

http://www.pref.miyagi.jp/site/mm-kentei/

「宮城県広報課フェイスブック」
で情報発信中!

イベントやお知らせなど県からの旬な情報を写真や動画で届けています。フェイスブックで「宮城県広報課」と検索するか、下記ホームページからご覧ください。

「宮城県広報課フェイスブック」に「いいね!」をしていただくと、随時、情報が受信できるようになります。

https://www.facebook.com/pref.miyagi.jp

10月は3R推進月間です!

ごみを減らす
ほんの一歩!
3R

リデュース
Reduce
発生抑制

リユース
Reuse
再使用

リサイクル
Recycle
再生利用

誰でもできる3Rを実践し、環境にやさしい行動をしましょう

私たちが日々の生活でどれくらいのごみを発生させているかご存じでしょうか?

県内では、紙や食料品などの容器、ごみなど、年間80万トンを超えるごみ(東京ドーム2.4杯分)を発生させており、県民1人1日当たりに換算すると、約1キログラムのごみを発生させていることになります。

一方、これらのごみは、日常生活のちょっとした一手間で減らすことができます。そのためのキーワードが、今回ご紹介する3R(リデュース、リユース、リサイクル)です。

3Rを実践しましょう!

【ごみを減量する】
・生ごみを3つの「さる」(使いきる、食べかる、水をさる)で減らしましょう。

・マイバッグ、マイカッパ、マイボトル、マイ箸などを利用しましょう。

・詰め替えの製品や包装の少ない商品を選んで買おうようにしましょう。

【物を繰り返し使う】
・壊れてしまった物を修理したり、いらなくなった物を人に譲ったりするごとに、物を何度も使いましょう。

・物を大切に使い、できるだけ長い間使いましょう。

【資源として再利用する】
・ごみは、分別することで、資源として再利用できるようになります。お住まいの地域の分別の仕方を確認して、きちんと分別しましょう。

・リサイクル製品を買うことも、資源を再利用するための大切な行動です。お買い物の際はリサイクル製品を選んでみましょう。